

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4270300405
法人名	医療法人 重真会
事業所名	医療法人重真会 グループホームまこと
訪問調査日	平成 19 年 11 月 29 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 25 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270300405
法人名	医療法人 重真会
事業所名	医療法人重真会 グループホーム まこと
所在地 (電話番号)	長崎県島原市中野町丙30番地7 (電話) 0957-63-5539

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成19年11月29日	評価確定日	平成20年1月25日

【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	11.2 人

(2) 建物概要

建物形態	(併設) 単独	(新築) 改築
建物構造	鉄骨鉄筋 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	— 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		850 円

(4) 利用者の概要(平成19年9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木下内科医院、森元歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体の医療法人とのしっかりと協力体制のもと、「真の笑顔と思いやりで、あせらず、いそがず、その人らしく」という独自の理念を掲げ、利用者が日々その人らしく暮らしていけるような支援に取り組んでいる。

ホーム内の掲示物を利用者の目線の高さに合わせたり、利用者の身体の状態に合わせて庭の花壇を立ったままや車椅子でも手入れできるような工夫を施したりして、利用者ができるだけ得意なことなどをできるように配慮しているほか、料理や食事の準備、献立作りなど、様々なことに職員と利用者が一緒に取り組み、互いに支えあう関係づくりに努めている。

また、職員は事業所や法人内で様々な研修を受けたり、他事業所との勉強会や情報交換会で交流を図ったりしながら資質の向上に取り組み、サービスの質の向上に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	②	前回の評価を受け、管理者を中心に職員全員で話し合いを行い、改善に向けた取り組みを行っている。
重点項目	③	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	④	職員一人ひとりが自己評価を行い、ユニット内でグループを作り、グループごとに話し合ってみて、さらに各ユニットで検討し、最終的に自己評価票を作成しており、自己評価への取り組みの過程で多くの気づきがあり、改善への取り組みも検討している。
重点項目	⑤	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	⑥	運営推進会議は、市の担当者、利用者家族代表、地域住民代表、管理者、職員で構成され、2ヶ月に1回開催している。会議では、ホームの現状や外部評価の結果等を報告し、出席者からの質問や意見を聞き、さらなる取り組みに活かすよう努めている。
重点項目	⑦	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	⑧	家族には、定期的に利用者の担当職員が作成した便りや写真を送付し、暮らしぶりを報告しているほか、健康状態や金銭管理などについては日常的に電話連絡を行っている。また、定期的な家族を交えたカンファレンスや面会の際に、家族からの意見を聞く機会を設けている。
重点項目	⑨	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	⑩	建物の1階にある通所介護事業所に老人会や保育園等の訪問がある際は、ホームの利用者も一緒に参加し交流している。また、地域の行事に利用者とともに参加したり、地域住民がホームを訪問してくれたりして交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「真の笑顔と思いやりで、あせらず、いそがず、その人らしく」というホーム独自の理念のもと、利用者が日々その人らしく暮らしていけるよう支援に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットの見えやすい場所に理念を掲示するとともに、ミーティングなどの際に確認し合い、職員間の理念の共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	建物の1階にある通所介護事業所に老人会や保育園等の訪問がある際は、ホームの利用者も一緒に参加し交流している。また、地域の行事に利用者とともに参加したり、地域住民がホームを訪問してくれたりして交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を受け、職員全員で話し合い改善への取り組みを行っている。また、今回の評価では職員一人ひとり自己評価を行い、ユニットで内作ったグループごとに話し合っまとめ、さらに各ユニットで検討し、最終的に自己評価票を作成しており、自己評価への取り組みの過程で多くの気づきがあり、改善への取り組みも検討している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議設置要綱を作成し、要綱に沿って2ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、利用者や地域住民、市職員等に参加してもらっている。会議では、ホームでの取り組みについての様々な報告を行い、参加者からの質問や意見を受け、更なる取り組みに活かすよう努めている。		

長崎県 グループホームまこと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員には運営推進会議に参加してもらっており、運営推進会議以外の場面でも連携をとり情報交換等を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、定期的に利用者それぞれの担当職員が作成した便りや写真を送付し、利用者の暮らしぶりを報告しており、状態の変化があった場合などは、その都度電話連絡も行っている。また、ホーム便りも発行しており、その中でも利用者の暮らしぶりやホームの行事などについて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に職員から声をかけ、家族が意見を出しやすい雰囲気づくりに努めており、家族の面会や家族を交えたカンファレンスなどの際に、家族の意見を聞く機会を設けているほか、玄関口に意見箱も設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はユニット間に留められており、異動がある場合には前もって利用者や家族に説明し、十分な引継ぎに配慮し、できるだけ利用者の負担にならないように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で独自に研修を行ったり、法人内の介護老人保健施設と合同で研修を行ったりするほか、外部の研修にも積極的に参加している。	○	経験が少ない職員も多いため、今後もホーム内外の研修に積極的に参加し、職員の資質向上に取り組まれることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	保険者や行政が開催する情報交換会や勉強会に参加し、他事業所の職員との交流を図りながらサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始以前にホームの見学に来てもらったり、自宅等へ訪問したりして、本人や家族とコミュニケーションを図り、安心してサービスが利用できるように努めている。また、緊急に利用するようになった場合は、家族やこれまで親しくしていた方などの協力を得て、徐々にホームに馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は、料理や食事の後片付け、園芸など、何事にも一緒に取り組んでおり、職員が利用者から学んだり、利用者をサポートしたりする中で、互いに支えあう関係を築くよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者との会話や一緒に料理などをしながら、利用者一人ひとりの状態や意向、希望を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が協力し合いアセスメントを行うとともに、定期的に家族を交えたカンファレンスを開き、利用者本人の得意なことやできることを把握し、それらを反映した計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に家族とカンファレンスを行いながら見直しを行っている。また、随時モニタリングを行いながら、状態変化があった際など、必要に応じてアセスメントを行い、計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望、状況に合わせて、通院等の支援を行っている。また、地域の高齢者に対しても、状況や必要に応じて柔軟に対応し支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望するかかりつけ医を受診できるように、通院を含めて支援を行っており、受診のたびに家族と情報交換を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期の支援について十分に説明を行い、必要に応じて利用者、家族、主治医との話し合いを行って支援方針を決定し、支援するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、毎朝ミーティングで利用者のプライバシーへの配慮について確認しており、広報などに写真や名前等を掲載する際には、利用者本人や家族に確認し同意を得ている。また、利用者への言葉かけなどについては、職員同士話し合いを重ね、利用者に対して使わない言葉や方針を決め、実践にあたっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者はそれぞれにテレビを見たり、散歩したり、買い物に出かけたりと自由に過ごしており、利用者一人ひとりが自分のリズムで生活できるように支援している。		

長崎県 グループホームまこと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態や性格に合わせて、入居者同士で当番を決めて職員と一緒に調理や盛り付け、後片付けなどを行っている。献立も利用者と一緒に考え、利用者の好みなどに配慮して作成し、職員も一緒に食事を摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっておらず、利用者の希望に合わせて自由に入浴が出来るように支援している。夏場などはシャワーを利用する頻度が高くなることもあるが、状況に合わせて利用者の希望に沿えるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意なことやできることを把握するよう努めており、状態や性格を考慮して役割をお願いしたり、意向を聞きながら楽しみごとを考えたりして、職員も一緒に行いながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝の散歩や買い物等の日常的な外出のほか、墓参りや外食に出かけるなど、利用者の希望に沿った支援ができるように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけず、職員の見守りにより、外出したいような様子の利用者がある場合は、さりげなく声をかけ職員が付き添い外出するなど、自由な暮らしの支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに訓練を行っている。また、隣接する老人保健施設と合同での避難訓練も実施し、消防署の協力のもと消火訓練も定期的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量は毎日チェックしており、必要に応じて法人内の栄養士に相談している。また、利用者の状態に合わせて、職員と一緒に食事を摂りながら介助している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	有明海を一望でき、自然光がとても明るく、対面式の台所から食事の準備をする様子が窺え、包丁の音が聞こえるなど、生活感が感じられる共用空間となっている。また、畳の間などで利用者それぞれに自由に心地よく過ごせるような配慮が施されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が自宅で使用していた物品を自由に持ち込んでもらうなど、居心地良い空間づくりに努めており、「自分の部屋」といった様子が感じられた。		